

地域が必要とする
沖大自主存続の歴史に学ぶ
大学創生

2024年3月2日

沖縄大学学長 山代寛

沖縄県内の高等教育機関 (緑:復帰前創立)

- ▶ 名桜大学
- ▶ 沖縄工業高等専門学校
- ▶ 沖縄科学技術大学院大学 (OIST)
- ▶ 沖縄国際大学
- ▶ 琉球大学
- ▶ 沖縄キリスト教学院大学
- ▶ 沖縄キリスト教学院短期大学
- ▶ 沖縄県立芸術大学
- ▶ 沖縄女子短期大学
- ▶ 沖縄県立看護大学
- ▶ 沖縄大学

1956年財団法人嘉数学園創立

1957年沖繩高校開校

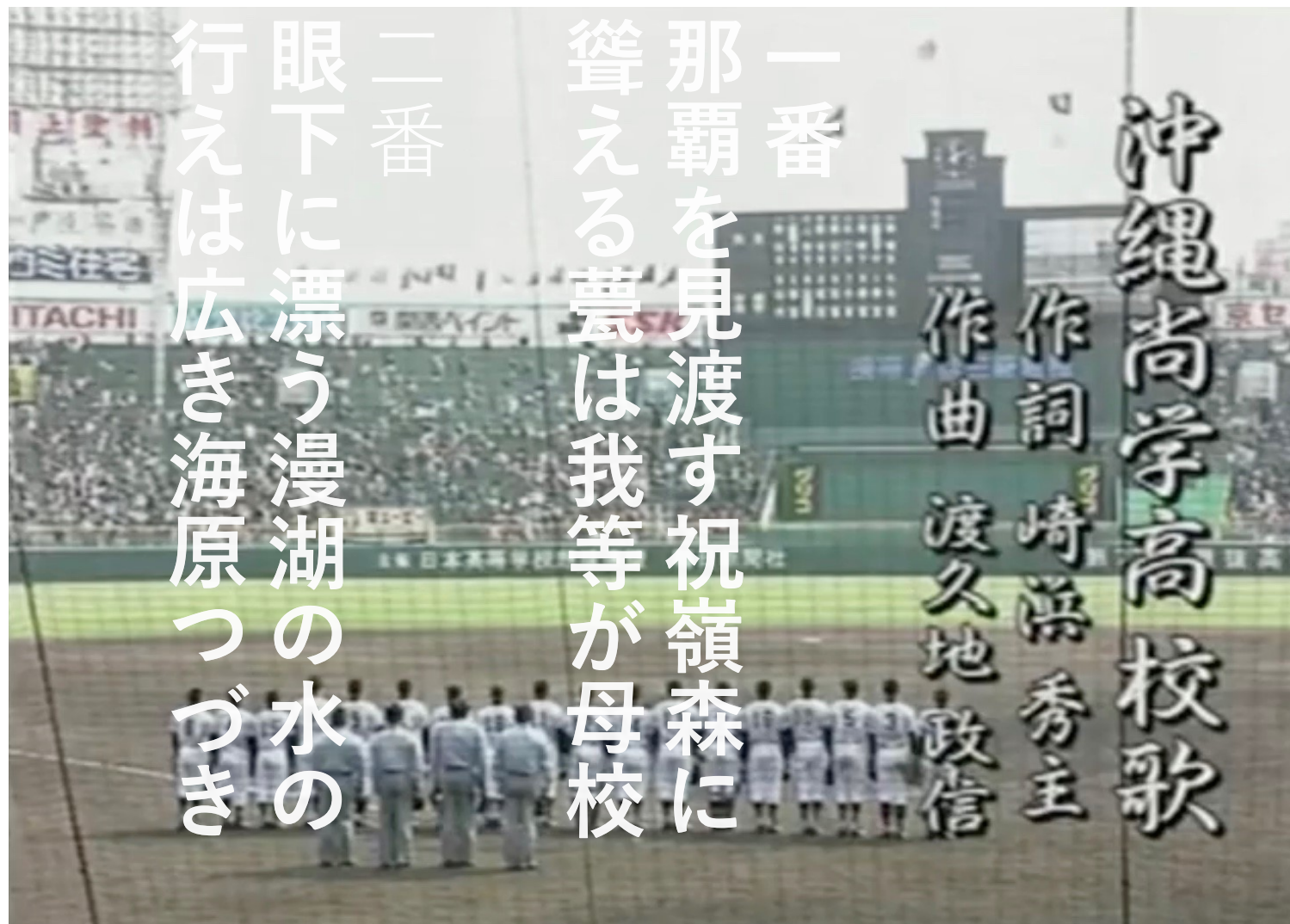
→1983年沖繩尚學高校

→1991年法人分離

1958年沖繩短期大學開學

→1961年沖繩大學開學

沖縄高校校歌 現在は沖縄尚学高校校歌 甲子園でながれた歴代最短校歌



沖縄尚学高校（ウィキペディアから引用）

- ▶ 1957年に財団法人嘉数学園（現：学校法人沖縄大学）によって沖縄高等学校として開校。
- ▶ 1983年より現校名に改称し、中高一貫制の進学校として再出発した。
- ▶ 現在は県内で予備校や学習塾を展開する尚学院グループによって運営されており、トップ難関校への現役合格実績も挙げている。

創設者 嘉数昇先生



那覇市国場の出身

- 戦前 県会議員
- 琉球生命保険社長
- 嘉数学園の創立

創設者 嘉数昇先生の略歴

1902年 那覇市国場で出生
1915年 那覇市立第一高等小学校卒業
1922年 日本生命保険株式会社沖縄支店長
1942年 沖縄県会議員に当選
1949年 琉球生命保険株式会社を設立(社長に就任)
1953年 琉球生命保険株式会社を退職
1954年 国民府議員(県庁)として米國へ派遣される
1956年 財団法人嘉数学園(沖縄県立高等学校)創立
1956.11.26~1972.5.31 理事長
1958年 (財)嘉数学園 沖縄短期大学開学
1961年 (財)嘉数学園 沖縄大学(4年制)開学
1961年 沖縄経営者協会会長
1962年 沖縄私立学校協会会長
1963年 (財)琉球生命済生会理事長(理事長に就任)
1966年 財団法人嘉数会会長
1967年 財団法人嘉数女子学園(沖縄女子短期大学、沖縄県立高等学校)学園長
1968年 沖縄タイキョウ会会長
1974年 沖縄社会人野球連盟会長
1974年 7月22日逝去。享年72歳

(主な表彰・受賞歴)
沖縄タイムス文化賞 受賞(私学創設の功績により)
嘉三寺屋安孝 受章

沖縄大学のユニークな歴史



沖縄大学開学の 1958年とはどういう年？

- 沖縄大学が開学した1958年の秋重要な政策が実施された。
- 占領下の沖縄で使われていたB円をアメリカドルに切り替え。
(54年55年56年米国大統領は沖縄の無期限保有を宣言、57年大統領行政命令発令)

1958年はB円からドルに切替えの年

画像はB型軍票の5円



嘉数氏は
何を目的として大学を設立したか

- 教育の機会均等
- 日本人教育
- 沖縄発展のカギとなる人材育成

1961年 沖縄大学開学記念式典

- ▶ 大田政作行政主席
- ▶ 長嶺秋夫立法院議長
- ▶ キャラウェイ高等弁務官
第3代琉球列島高等弁務官

「沖縄住民による自治は神話に過ぎない」

沖縄占領を持続するためには、日本の「無関心」が必要

1968年 創立10周年



1961年 開学祝賀会キャラウェイ高等弁務官

1960-196

沖縄大学苦難の時代 1

- 1 大学紛争（～70年頃）
- 2 存続闘争（～73年頃）
- 3 移転問題（～78年頃）

沖大の大学紛争

- 学園民主化（学長選挙 理事会構成）
 - 家政科廃止問題
 - 待遇改善
- ※復帰運動の影響
- ※全国の学生運動の影響



1967年 学内抗議集会で自主管理を宣言

大学紛争の時代

▶ 沖大の全学総決起大会 (1969年4月)

- ✓ 経営の民主化
- ✓ 待遇改善
- ✓ 学園分離
- ✓ 自主管理
- ✓ 無期限休講
- ✓ ロックアウト



学生の声（66年3月卒業）

- ▶ 63年の家政科廃止に端を発した沖大の学園民主化闘争は依然として解決されず、在学4年間で3回のストが決行され、『スト大学』とまで呼ばれた。しかし、ストは一部の学生の扇動ではなく、学生一人ひとりが心の底から沖大の発展を願う叫びだった。（「小さな大学の大きな挑戦」57頁）

大学紛争の終息と残したものの

- ▶ 7人委員会の斡旋により妥協して紛争終息
(副主席、文教局長、教職員会会長、琉球大学
学長等)
- ▶ 残したものの：
「自主独立の自由で民主的な学風の追求」
(「小さな大学の大きな挑戦」 86頁)

沖縄大学苦難の時代 2

- 1 大学紛争 (～70年頃)
- 2 存続闘争 (～73年頃)
- 3 移転問題 (～78年頃)

存続闘争

- 沖縄の全大学が基準に達していない
- 文部省方針 ①琉球大学は国立にする
- 文部省方針 ②国際大学（コザ市）と沖縄大学は統合の方針

ところが↓

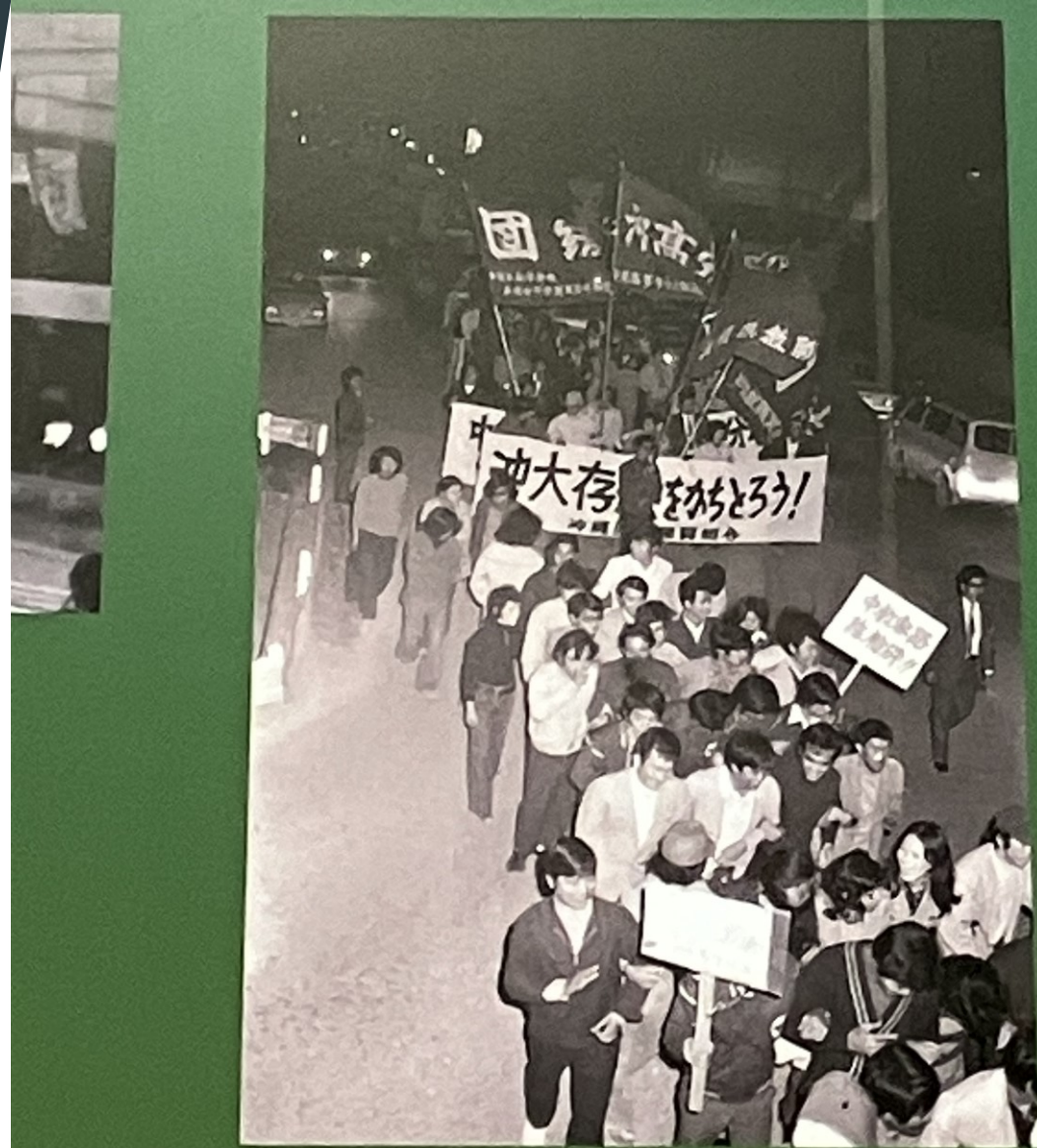
- 沖縄大学の18名の教員が存続へ
- 文部省は**沖大は大学として認めない**方針

存続を主張する18名の教員の意見

- ▶ 種々の形で本土への系列下並びに再編成が強引に行われている。
- ▶ 一切が強大な力に組み込まれている中で、せめて私立大学だけでも踏みとどまるどころがなければならぬ

存続に向け県民の支援

- ▶ 県民の署名運動
- ▶ 知事が文部省への要請
- ▶ 文部省前での座り込み
- ▶ 総評の
「沖大存続支援」決議
- ▶ 県民総決起大会



1972年「沖縄大学の存続をかちとる県民総決起大会」
(琉球新報社提供)

裁判闘争 文部省との交渉

- ▶ 裁判長「新しい大学として設置申請をしたらどうか、判決まで5, 6年かかる」
- ▶ 文部省課長「佐久川学長大変ご苦勞をかけました。あなたの大学は認可されます」



沖縄大学存続を訴え文部省前でビラ配

当時の沖縄大学の学長だった佐久川先生のお話の映像がありますのでお聞きください。

存続闘争が残したものの

- 祖国復帰は第三の琉球処分と言われた。
- 処分されない気概を示した。
- 存続に県民の支援を受けた。
- 県民とともにある大学という性格を形成。

沖縄大学苦難の時代 3

- 1 大学紛争（～70年頃）
- 2 存続闘争（～73年頃）
- 3 移転問題（～78年頃）

沖縄大学苦難の時代 3

- ▶ すすむ沖縄国際大学の整備
- ▶ 学生の漸減傾向
- ▶ 移転を進める側と反対する側
- ▶ 那覇市に残ることを選択へ

県都那覇にある大学

- ▶ 琉球大学は宜野湾、西原へ
- ▶ キリスト教短期大学は西原へ
- ▶ 女子短大は与那原へ
- ▶ 県立芸術大学の一部が南風原へ
- ▶ 県都にある文科系総合大学としての沖縄大学

1978年新生沖縄大学へ

- 教育と地域共創の大学として高い評価
- 移転問題決着し、安良城盛昭学長体制
- 地域に根差し、地域に学び、地域に奉仕する
（地域と共に生きる）、開かれた大学
- 土曜教養講座は600回を超え
沖縄タイムス社、那覇市から表彰

新生沖縄大学

教育と地域共創の大学

- ▶ 大学は中身で勝負する
 - 単位互換制→派遣学生制度
 - カリキュラム
 - 課題図書の入試
 - 授業評価
 - 就職率トップ

全国初の単位互換派遣学生制度

1979年沖縄大学が開始

旭川市立大学 札幌大学 和光大学

東京国際大学 茨木キリスト教大学

法政大学 津田塾大学 関東学院大学

岐阜協立大学 愛知東邦大学 京都精華大学

神戸親和大学 広島修道大学

現在13大学

首都圏大学との学生対流事業 (内閣府事業)

- ▶ 首都圏大学と地方大学の協働事業に内閣府が支援
- ▶ 全国で10件採択予定

- ▶ 関東学院大学－沖縄大学
- ▶ 法政大学－沖縄大学と名桜大学

沖縄大学の教育と研究

- ▶ 7つのGP（good practice）に採択
2007年から2009年
- ▶ 私立大学研究ブランディング事業に県
内で唯一採択（2016年）
- ▶ 「沖縄型福祉社会の共創」

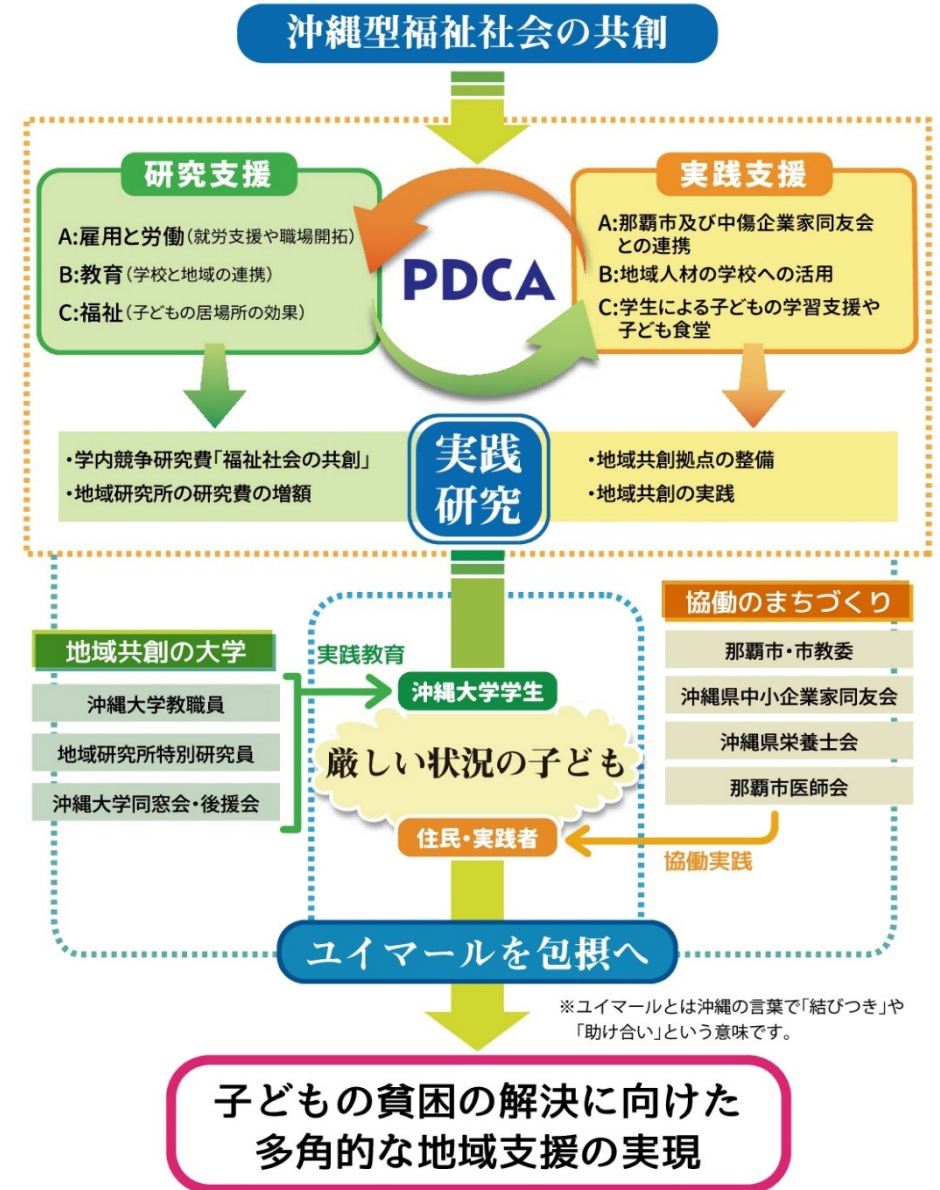
沖縄大学の研究力が評価

研究ブランディング事業

「沖縄型福祉社会の共創」

- 約1,000の私立大学・短大から40大学採択。県内からの採択は本学だけ。
- 本事業で、子どもの貧困問題を優先課題とする全学的な研究に取り組んでいます

〈イメージ図〉



地域共創の大学

- 沖縄大学の1978年に掲げられた理念
「地域に根差し、地域に学び、地域に
奉仕する、開かれた大学」
「地域に根差し、地域に学び、地域と
ともに生きる、開かれた大学」
地域研究所
大学院現代沖縄研究科
地域重視はトレンド
沖大は全国の先駆け、他の大学が沖大
においついてきた

地域共創・未来共創の大学へ

- ▶ 2003年に大学基準協会に加盟
 - 自己点検・評価に対する厳しい判定
- ▶ 教育・研究活動等の改善と2008年に迎える創立50周年において第一次五カ年計画策定
- ▶ 大学の理念を「地域共創・未来共創の大学へ」という沖縄大学憲章として再定義
- ▶ 地域の未来を共に創る人材の育成を表明

OKIDAI VISION 2028

沖縄大学長期ビジョン

- ① 沖大という場
- ② 沖大の教育・研究
- ③ 沖大の学生像
- ④ 沖大の新たな共創への挑戦

という理念を解釈したの4つの具体像から

「地域がキャンパス、地域のキャンパス」

という沖縄大学の将来像を示す

今年創立66周年

地域と共に66年を歩んでまいりました。

- ▶ 県の要請で、県内唯一の管理栄養士養成施設「健康栄養学部 管理栄養学科」を開設。昨年一期生を地域に送り出しました。
- ▶ 小学校教員養成でも県内で注目されています。
- ▶ 「地域共創」という変わらない理念が、沖縄大学を変えていきます。



管理栄養士一二期生による栄養指導を
人間ドックで受けました。



仲地礼亜投手
中日ドラゴンズ一塁指名